

1. 件名：原子力エネルギー協会との面談
2. 日時：令和5年5月18日（木）16：00～18：03
3. 場所：原子力規制庁9階会議室
4. 出席者：  
原子力規制庁  
長官官房技術基盤グループ  
技術基盤課 佐々木企画官、酒井原子力規制専門職、藤澤技術参与、  
篠田係長  
システム安全研究部門 北條主任技術研究調査官、皆川副主任技術研究調査官、  
船田技術参与  
原子力規制部  
原子力規制企画課 佐藤係長、望月専門職、金坂係員  
  
原子力エネルギー協議会 事務局長 他4名  
東京電力ホールディングス株式会社 原子力設備管理部 設備技術グループ 課長  
他2名  
関西電力株式会社 原子力事業本部 保修管理グループ チーフマネジャー 他7名  
中国電力株式会社 電源事業本部 原子力設備グループ 副長 他1名
5. 要旨：  
○原子力エネルギー協議会（ATENA）より、日本電気協会の「原子炉構造材の監視試験方法（JEAC4201）」の改訂方針について、配布資料に基づき説明があった。  
○ATENA より、改訂版規格は2023年下期に発刊予定であり、発刊され次第、技術評価を希望する旨、発言があった。  
○規制庁より、技術評価の実施計画については、公開での聴取の上検討するため、改訂内容及び技術評価を希望している他規格との兼ね合いを整理し、優先順位を説明するよう申し伝えた。  
○ATENA より、対応する旨、発言があった。  
○5月11日の面談において、規制庁より電気ペネトレーションの電線接続部の耐久性に関する質問をATENAに配布し、回答を依頼していた。  
○ATENA より、関西電力が至近の定期検査で実施を予定している通電波形観測について、配布資料に基づき、説明があった。また、現在調査中の事項については、まとめ次第、回答する旨、発言があった。  
○規制庁より、電線接合部のはんだの長期的耐久性に関する質問については、技術的根拠を提示するよう依頼した。  
○ATENA より、検討する旨、発言があった。

6. 配布資料：

資料1 通電波形観測について

資料2 原子炉圧力容器の経年変化に関する検討状況を踏まえた関連規格の技術評価の希望内容について

以上